

持続的な発展と魅力あるまちづくりの
実現に向けて!!

代表質問

自民

小金井 勉 議員



金谷川河川事業の進捗状況について、これまでどの区間まで整備が完了しているのか、現在の段階にあるのか。また、今年度は具体的にどのような工事内容を予定しているのかお伺いします。

答 準用河川金谷川改修事業の進捗状況については、事業区間である460mのうち、用地取得は令和6年度までに全て完了しています。河川改修工事については、金谷川からJR東金線の手前までの203mの区間が6月までに完了する予定です。

今後の工事予定については、令和11年度までの4年をかけ、JR東金線横断区間を予定しており、施設管理者であるJR東日本へ工事の施工等を委託することで、現在手続を進めています。今年度の工事内容については、保線業務となる防護枕木やレールの交換等の移設工事を進める予定です。

問 金谷川河川改修事業は、単なる河川改修ではなく、災害時における浸水対策、道路整備等将来的なまちづくりに関わる極めて重要な都市基盤整備であります。一方、近年人件費や資材価格は高騰を続けており国際情勢の不安定化により、石油製品をはじめ資材調達にも影響が出ることが懸念されます。工事費は今後ますます上昇していく可能性が高いものと考えます。市として、改修事業をどのような意気込みで進めていくのか今後の取り組み姿勢を伺います。

答 金谷川の河道拡幅と併せて側道整備も計画していることから、可能な範囲で進捗が図れるよう努めています。

問 山辺土地改良事業の進捗状況と今後のスケジュールについて、現時

点での見通しをお伺いします。

答 令和4年2月に事業計画の採択を受け、千葉県が事業主体として土地権利者等との調整を進め、令和7年11月に換地計画原案を決定しました。今後は、令和8年に工事着手し、令和11年度の完成を目指し、工事を進めていく予定とのことです。

この事業は当初、令和10年度に事業完了となっていました。現時点で3年余り遅れています。私も地権者の1人として、工区委員会や営農部会、工事部会等様々な部会が一体となっていない部分があると感じます。県も農業事務所とまたいでいるので、答えがまとまっていなくて、ある状況です。地元地権者が頼るのはやはり市役所ですので、しっかりと共有して、今後もしっかりと頂きたいと願います。

問 企業誘致について、市は具体的にどの地域、どの場所に企業を誘致しようと考えているのでしょうか。

答 本年4月に企業誘致基本方針を策定し、圏央道大網白里SIC（※）周辺エリアと九十九里ビーチライン沿道エリアの2つの地域を戦略エリアと設定し、優先かつ重点的に企業誘致を進めます。

（※）スマートインターチェンジ

問 大網白里SIC周辺の企業誘致について、先日、熊谷知事が本市を視察された際、市長から知事にどのような要望をされたのか。どのような回答があったのかお伺いします。

答 周辺の土地利用規制の調整などについて支援を要望。県庁内の関係部局が連携し、支援を行っていきたいとの回答をいただいたところです。

その他、大網駅周辺の内水対策について質問しました。

関連質問

土屋 忠和 議員



○四天木堀川遊歩道の整備について 我が街に流れるふるさと心の心、「堀川」の堤防を市民が散策できるように、約2km整備できないのか。

答 市としては、遊歩道整備の必要性を検討した上で、堤防が通年で通行可能となるような対策を千葉県と協議してまいりたいと考えております。

○大網白里市空家等対策計画の進捗状況について

問 新たな空き家を増やさない取組みはどのように行っているか。

答 昨年度におきましては8月及び3月の2回「空家等連絡協議会」の構成団体である千葉県宅地建物取引業協会、全日本不動産協会千葉県本部及び、千葉司法書士会のご協力をいただき、「空き家相談会」を開催したところです。相談会には、延べ24組の方にご参加いただき、空き家の管理や相続、売却等に関する相談に対し、専門的な立場から助言をいただいたところがございます。また、相談後の継続的な立場から助言をいただいたところがございます。また、相談後の継続的な対応も含め、参加者から好評をもらい、本年度におきましても2回の開催を予定しております。啓発資料の配布も施策の1つ。

問 空き家を減らす取組みはどのように行っているか。

答 空き家実態調査の結果を踏まえ、特定空家及び、管理不全空家に該当する恐れのある23件の空き家について、令和7年度に空家等対策協議会における審議を経て策定した判断基準を活用し、現地調査を実施いたしました。これらの空家等につきましては、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、立ち入り調査や情報提供を実施するとともに所有者に対し、適正管理及び改善に向けた助言、指導を行っているところです。

関連質問

金森 浩二 議員



市内公共交通空白地域について 4月から瑞穂地区コミュニティバス（みーバス）を運行開始して頂き、私が議員になって初めて質問させて頂いた案件が、スピーディーに形になり、市民の利便性の向上に大きな影響を与えるものと期待しております。

問 みーバスの乗客数、稼働状況を教えてください。

答 1日当たりの本数は7便で、365日運行しております。ご利用者数は、4月は636人5月は581人。2ヵ月間の1日平均利用数は、19.9人1便平均2.9人でした。

今後課題等出てくると思います。が、利用者の声にも真摯に向き合っており、対応・対策・さらなる利便性の向上に努めて頂きたい。

問 残りの市内公共交通空白地域に対して、今後の対応・対策について

答 地域公共交通活性化協議会の中で実情に合った対策を検討します。

教育行政について

今年度から小学校の給食が完全無償化を始めて頂き感謝しております。中学校でもいち早く叶うことを切に願っております。

問 白里中学校だけ他の中学校よりもお弁当持参回数が多いのはなぜでしょうか。

答 各学校において、行事や授業数の確保のため、給食が提供できない日が生じた際に保護者にお弁当の持参をお願いしているが、各学校で対応の違いがある。教育課程や行事計画などが異なっており、各校長が必要性を勘案し、実施している。教育委員会としても各校長に対し、指導・助言に努めていきます。

更に2027年インターハイバレーボール大会について質問しました。

個人質問

インクルーシブなまちづくりを実現し、人口増加を

猪崎 紀人 議員



○持続可能な財政運営について 本市の人口もついに4万7,000人を切り、4万6,000人台となり、個人住民税が大きな割合を占めている関係上、定住人口を増やすだけでは、地域と多様に関わる関係人口の創出が重要だと考えます。

問 本市における関係人口増加のメリットと、関係人口を創出するため、市は何に取り組んでいますか。

答 関係人口の拡大は地域の活力維持や地域課題の解決に大きな効果をもたらすと考えており、イベントの充実、地域活動やボランティアなどへの参加機会の創出、2地域居住の推進などを行っています。

問 企業版ふるさと納税の進捗は。

答 令和7年度の企業版ふるさと納税の寄附受入れ実績は360万円です。成果報酬型の支援サービスを行う民間事業者と連携し、企業に向けた寄附募集のパンフレットの作成やダイレクトメールの発送を行っています。

問 企業版ふるさと納税は、当初、社長の出身地など地域性が重視されていましたが、最近はCSRやSDGsなどの高まりから、企業側も寄附を通して社会貢献につながる寄附先を探しています。

○インクルーシブなまちづくりについて

インクルーシブとは、障害の有無や年齢、属性にかかわらず、全ての人がその能力を発揮し、地域経済や社会に参画できる仕組みです。誰もが生きやすく活躍できるまちは子育て世代や移住者を引きつける最大の呼び水となり、人口減少社会における最強の戦略となります。

問 市におけるインクルーシブなまちづくりについて、市長はどのように考えていますか。

市長 年齢や障害の有無、性別、国籍といった違いを超えて、全ての市民が互いに価値観を尊重し、一人ひとりが活躍できる社会の実現を目指す取組みであると認識しています。人口減少や少子高齢化により地域コミュニティの衰退などが想定される中で、誰もが自分らしく生き生きと暮らせる「住みたい・住み続けたいまち」の実現に向けて取り組んでいく考えです。

問 インクルーシブなまちづくりを庁舎全体、地域一体になって進める上で市長が考える最大の課題は。

市長 市民の皆様の理解と参加をいかに促進していくかが最も重要な課題であると認識しています。

問 本市における障害のある児童数の近年の推移は。

答 障害児通所支援を利用している児童数は、令和5年度は383名、令和6年度は443名、令和7年度は488名です。

問 本市の公共施設や公園などのバリアフリー化に対して、障害当事者の方や障害児童の保護者の方などの意見を反映させていますか。

答 高齢者や障害者の方々への意見聴取や利用者視点の反映など現在行っていますが、今後はその必要性が高まっていると考えています。

インクルーシブなまちづくりを市長自ら進め、整備資金を企業版ふるさと納税で募り、庁舎全体、地域一体となつて進めることで人口増加に結び付けることが可能だと考えます。

※その他、包括施設管理について、ユニバーサルツーリズムの推進についてなど質問しました。